

藤塚地区にぎわいづくり検討会 第4回 議事録【概要版】

日 時：令和4年11月15日 10：00～12：00

場 所：青葉区役所9階 第一・第二会議室

出席委員：宮原委員、櫻井委員、宍戸委員、東海林委員、平間委員、平舘委員、奥山委員、川邊委員、大黒委員

事務局：公園整備課長、公園管理課長、若林区海浜エリア活性化企画室長、宮城野区まちづくり推進部海浜エリア活性化担当課長、名取市商工観光課

司 会：公園整備課主幹兼建設係長

1. 開会	司会(事務局)あいさつ (進行座長)
宮原座長	・ 座長よりあいさつ。
宮原座長	・ 会議の成立・非成立：11名のうち9名参加により成立 ・ 議事録署名人の指名：宮原座長、東海林委員
2. 議事	議題 (1) 第3回検討会までの総括 議題 (2) 今後の方針とスケジュール案 議題 (3) ゾーニング図 事務局より説明
宮原座長	・ 第3回検討会までの意見の総括と今後の方針、スケジュール案、ゾーニング図等についてご説明いただいた。 ・ これから皆様よりご意見をいただくが、まず平間委員より前回提案があった全天候型遊び場のご説明をいただきたい。
平間委員	・ 前回第3回で屋内遊具施設を提案させていただいたが、その後、岐阜県各務原市の施設を含め全5か所を視察してきた。その中でよいと思った施設をご紹介します。 ・ 各務原市の施設「森のわくわくの庭」は、隣接する「学びの森」と「市民公園」の中間地点に立地しており、接着剤のような役割を持って公園との行き来ができるようになったことで、高い評価を受けている。 ・ 施設はそこまで大きな建物ではなく基本的には平屋であるが、真ん中の部分が吹き抜けで、両サイドは2階に上られる構造であった。 ・ 資料に示す写真は日曜日の様子で、非常に混雑していた。子どもたちは靴を脱ぎ裸足で利用していた。 ・ 従業員は受付に2人、中に1人の3名体制。木がむき出しで危ないようにも感じるが、入館時に契約書にサインをしてもらい、この施設内での怪我には一切責任を負わないことを了承してもらっており、けが人は年に1人いるかないか程度とのこと。

- 建物は線路沿いに立地しており、全面ガラス張りでどこからでもアプローチできるよう、前面はすべて扉になっていた。
- 施設の目の前にある「学びの森」は非常に静かな公園で、散歩等している方がいた。「市民公園」の方ではキッチンカーのナンバーワンを決めるフェスティバルを開催しており、キッチンカーが60～70台集まっていたととてもにぎわっていた。
- 受付はLINE登録により予約するシステムになっており、公園内で使用できる遊び道具の貸出しもLINEで管理しているため、従業員の数を抑えることができるとのことだった。
- 2階に上るための階段状遊具は一見危ないようにも見えるが、子どもたちは気にせず思い切り体を動かしていた。2階部分は網の目のトランポリン状になっているが、その下でも子どもたちが遊んでいた。この網の目は十分な強度があり、大人が乗っても問題ないとのことだった。
- 2階部分のスペースはハイハイやつかまり立ちの子どもが遊ぶ空間で、子どもが走り回っている空間と分けることで、安全性を確保していた。デッキの下にはカフェが併設されており、遊び場の利用者以外も飲食が可能であった。
- 建物は木造で、すべて岐阜県産材が活用されており、木材の中に鉄筋を入れて強度を増しており、耐震性は高いとのことだった。この施設ではないが、別の施設では全国47都道府県の木材を利用しているところもあった。
- 大きな特徴の一つとして、施設出入りは一日自由で、施設内だけでなく、道具を借りて外の公園と行き来することも可能。まさに接着剤のような役目の施設と感じた。
- 山形県内には多くの全天候型施設があり、宮城県民はわざわざ越県して山形県内の施設を訪れている。宮城県内・仙台市内にはこのような施設が少なく、山形に人が流れているのが現状である。
- 岐阜県各務原市の例では、独立していた2つの公園の中間地点に子ども施設を設置していたが、藤塚地区の公園とアクアイグニスの中間地点に全天候型施設を設置して関連性を持たせることで、各務原市の事例と同様に交流人口を拡大できるのではないかと考えている。
- 貞山運河の原風景が残されているのが藤塚地区の特徴であり、自然や歴史を伝承し取り込んでいく場所としては、藤塚が最適と考えている。
- 仙台市では、秋保地区を中心とした西部、中心部、沿岸部を中心とした東部の沿岸地区の3エリアでの観光ブランディングを行っている。東部沿岸部は集客や人の流れをつくるのが難しいなか、このような施設の整備によって隣県からの集客も見込めるのではないかと考える。
- Park-PFI制度を使い、「森のわくわくの庭」を建設した際の事業スキームを事細かに教えてもらった。基本的には事業主体である民間事業者が立ち上がり、市と協定を結ぶ。市から負担金を受け取り、事業主は貸付事業計画を作成して株主から出資を受けるという流れである。各務原市施設の事業費は3億円強であったが、物価上昇を考慮すると、同じ施設をつくろうとしたとき4～5億円ほど必要であると推定している。
- 先日、アクアイグニスの中央を通っている市道にて、縁石につまずき怪我をする事故があった。公園整備により市道がメインストリートになると、交通

	<p>量の増加が見込まれ、危険性が増すのではと危惧している。案として、施設内の市道は通行止めにして太陽光発電施設側の迂回路を使ってもらい、または施設内の市道の安全性を確保するなど、公園と一緒に整備していければ良いと思う。</p>
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> 平間委員から岐阜県にある全天候型遊び場の類似施設をご紹介いただいたが、これに対してご意見あるか。事務局はどう考えているか。
阿部課長 (仙台市公園整備課)	<ul style="list-style-type: none"> 現在、ゾーニング図やパース図に皆様の意見を落とし込んでいく段階であり、仙台市としての整備計画はこれから検討していく。 民間活力を取り入れたPark-PFI制度も視野に入れ、来年度以降に事業化検討を行っていく。今年度末までに内容を取りまとめ、平間委員のご提案どおりの施設になるかも含めて、次年度以降に施設の検討を進めていきたい。
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> 先ほど説明のあった検討会資料について、ほかにご意見・ご質問はないか。
東海林委員	<ul style="list-style-type: none"> 避難の丘をもう一つ新設することのだが、現在の避難の丘を大きくするわけではないのか。離れたところにつくるのか。 花畑は新設する避難の丘斜面につくるのか。今の避難の丘斜面のみに植樹するのか。 この図面のうちどのくらいが採用されるかはわからないが、資料通りに実現できればいい場所になると思う。 公園までのアクセスに問題がある。路線バスの延長や増減ではなく、小型のマイクロバスにしたら良いのではないか。また車利用でない人にとっても、アクセスのよい場所にしてほしい。 アクアイグニス中央の市道は、施設内の通路と認識される場合がある。歩道を拡幅したり車利用の人は迂回させたり等、事故が起きる前に対策してほしい。
阿部課長 (仙台市公園整備課)	<ul style="list-style-type: none"> 現在の避難の丘は周辺の営農者のために計画されたものであり、公園整備する際は、既存の避難の丘を拡張するだけでなく、もう一つ新設する必要があると考えている。だが、単なる避難施設という役割だけではなく、津波で流されてしまった経緯のある場所の象徴として、花畑を植樹するという意味合いもある。詳細な規模についてはこれからの検討になるが、皆さんからの意見を反映していきたいと考えている。 アクセスについては、公園が整備されれば利用者がそこに至るまでのアクセスの問題はあり、またかさ上げ道路や閑上大橋の渋滞問題もある。それらを踏まえ、公園整備の立場としては、他部署といろいろな話をしていかなければならない。 アクアイグニス中央の市道について、通行止めにするかという判断は難しいところだが、利用者の安全確保という観点から整理していきたい。
宍戸委員	<ul style="list-style-type: none"> 公園が整備された場合、何時くらいまで明かりがついているか。稚うなぎ漁が2月～4月に行われるが、陸側の明かりによってうなぎの行動に影響が出る可能性がある。
阿部課長 (仙台市公園整備課)	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な利用時間のイメージは現時点ではないが、日中の利用が主体になると考えている。井土地区にある冒険広場の利用時間は9時から17時と記憶しているが、藤塚地区がこのように閉園時間を決めて運営していくかも決まっ

	<p>ていない。民間施設がある場合は、民間の営業時間に従うことになるが、具体的にはこれから検討していく。</p>
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> 藤塚地区は貴重な生きものの棲み処になっていることから、これらに配慮した管理を進めていただきたいと思います。
平間委員	<ul style="list-style-type: none"> 提案された施設の中で、何が優先されて公園施設として採用されるのかという基準を教えてください。 藤塚は仙台市の災害危険区域に指定されており、宿泊施設は立地できないと認識しているが、最近アクアイグニスにキャンピングカーで来場する方が増えてきており、アクアイグニスの閉館後もキャンピングカー内にいらっしゃるのを見かける。計画の中にはすでにデイキャンプ場があるが、今後キャンピングカーでそのまま宿泊できる施設ができる可能性はあるか。
阿部課長 (仙台市公園整備課)	<ul style="list-style-type: none"> 優先度については、海岸公園復興基本計画のコンセプトに沿うものが優先される。ただし、これに含まれていないものについては、皆様のご意見を参考にしながら、民間にゆだねる部分等やかわまちづくりを利用する部分を含めて、検証しながら進めていきたい。 この地区は人が住めない場所である防災集団移転跡地であり、寝泊りするような施設は現時点では想定していない。
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> 表記の問題かと思う。今、道の駅で宿泊する人も多くいるが、今後、この場所がどのような規制があるか知らずに泊ってしまう人も出てくると思う。公園ができた後の管理の仕方が重要になる。
平舘委員	<ul style="list-style-type: none"> 関連しての質問だが、仙台市の災害危険区域条例では居住施設をつくれなだけで、宿泊できないわけではないと考えている。近年はキャンピングカーの需要が高まっており、キャンピングカー専用の施設をつくることで集客が見込め、ポテンシャルは高い。そのようなものでも不可能なのか。
阿部課長 (仙台市公園整備課)	<ul style="list-style-type: none"> 可能か不可能かというよりは、現時点でそのような施設は想定していない。需要が見込めて、そのような施設が必要ということであれば、公園整備計画に盛り込んでいくことになる。
櫻井委員	<ul style="list-style-type: none"> 名取トレイルセンターのキャンプ場では、ソロキャンプ含め平日でも10組ほど宿泊客がおり、どんどん利用者が増えている状況にある。にぎわいをつくるためには人に来てもらわなければならないので、そのような事例も参考に検討してみてはどうか。 旧荒浜小学校の前から名取川まで、満潮時をねらって貞山運河を船で移動してみた。運河から見るイメージは、道路や陸から見るイメージと全然違っており、手つかずの自然がしっかり残っている印象だった。井土浦の湿地帯は雑草が高く延びており、草刈りが必要と思った。 できれば階段護岸の部分にウッドデッキを整備してほしい。下段を2,3メートル、上段を5メートルぐらいの幅で200メートルくらいつくれば、運河に降りて水に触ってみようという気持ちになる。デッキで日向ぼっこをしたり井土浦の湿地帯を眺めたりできる。 井土浦は少し手を加えれば、自然を大事にしながら簡単に楽しめるエリアになる。また、デッキと水面の高低差がなければ、ボートを横付けしやすと思う。可能性は大いにある場所なので、もっと積極的にやってもらいたい。

	<ul style="list-style-type: none"> 2025年予定の関西大阪万博ではインバウンドが見込める。令和7年度までに公園整備を早く完成してもらいたいという思いがある。できれば国のインバウンド関係の補助金を活用しながらにぎわいを作っていきたい。 公園内のトレイン型バスがイメージとして載っているが、外装はキャラクターではなく、石炭を運ぶトロッコのような落ち着いた感じにしてほしい。公園内は距離があるため、坂を気にせず、どこでも降りられるようにして1日500円で回遊できるとよい。 かわまち事業について、運河を使った事業は皆無であり、唯一あるのは道頓堀の事例だが、藤塚は豊かな自然がみられる。全国から視察が来るだけで商売になると思うので、どんどん情報発信して行ってほしい。
阿部課長 (仙台市公園整備課)	<ul style="list-style-type: none"> 我々としても、行政でできることできないこと、民間にお願いすることについて、それぞれの役割を整理して進めていきたい。貴重な意見をいただき感謝申し上げます。
宮原委員	<ul style="list-style-type: none"> 今後のスケジュールとして、藤塚地区に元々住んでいた方たちへの説明の機会は予定されているのか。 避難の丘について、整備は仙台市、管理は民間事業者とあるが、避難施設の管理は民間でよいのか。
阿部課長 (仙台市公園整備課)	<ul style="list-style-type: none"> 住民説明は、今後検討する上で必要に応じて実施したい。 仙台市で整備する部分、Park-PFIなどを利用して民間に委ねる部分に分類するなかで、将来的には、民間事業者が指定管理者として管理するという考えもある。避難の丘の花畑部分は管理を民間にお願いするかたちだが、実際の避難の丘は、防災の観点から行政での管理を想定している。
奥山委員	<ul style="list-style-type: none"> 全天候型遊び場の提案については、にぎわいをつくっていくうえで大きい意味を持つと期待している。 実際には資金面や運営面で課題があるが、注目される施設となる。 この地区の自然環境、景観を大事にしていきたい。ツアーガイドによる案内や、水辺から見た時の景観の美しさを大事にしていきたい。ただのにぎわいだけではない地区としてほしい。
川邊委員	<ul style="list-style-type: none"> 地元を良く知る方の意見、この地域で高い志を持って事業を行い活性化させようとする方の意見、そして、多彩な交流という観点での様々な意見などがうまくまとまり、ひとつの形になりつつある。 実現にはハードルがあるが、できる限り努力していきたい。 行政では沿岸部の広い範囲での回遊性向上を目指している。当初は、特に観光的な面から、にぎわいとしての回遊性を基本に捉えていたが、今回提案のあった全天候型遊び場は、井土地区の冒険広場とも関連して、観光とは少し異なる、子どもたちの遊び場としての回遊性につながると感じた。
大黒委員	<ul style="list-style-type: none"> 皆様の意見をいただいて昇華させる立場にあるが、皆さんからいただいた多彩な意見をなるべく反映させていきたい。役割分担については、今後つめていかないといけない。色々と意見を頂き感謝申し上げます。
櫻井委員	<ul style="list-style-type: none"> 貞山運河を仙台市の歴史的な遺産・遺構として指定してもらえないか。様々な補助金への申請する際に、そのような指定があると国の方へ訴えやすい。 ゆりあげ丸は事業者へ寄付してもらうことで実現した。予算の問題もある

	が、市町村も寄付などの資金調達を、トップセールスで動いてもらいたい。
東海林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状、アクアイグニスの周辺は荒れ放題になっている。神社周りは自前で一部除草したが、冬になると枯れ草が車体を傷つけてしまう。 ・ 工事着手まではまだ時間がかかるようだが、定期的に草を刈ってもらうことはできないか。
阿部課長 (仙台市公園整備課)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現時点で除草の予算は確保できていないが、公園利用者に影響が出るのであれば、対策を考えていかないといけない。
宮原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的な意見や資料提供をいただき、お礼申し上げます。 ・ この検討会はこれで終了するが、今後具体的な検討に向けてスタートが切られると思うので、今後とも皆様からご意見いただければと思う。 ・ 参考資料の「六郷を探る会 藤塚・井土浦編」にて、藤塚地区のゆかりの物が地図にまとまっている。ぜひこれらを活用しながら整備を進めてもらいたい。 ・ 震災前に名取のハマボウフウを守る会が出版した貞山運河絵巻を会場右奥に展示しているが、貞山運河周辺の水鳥など、豊かな自然がとても良くまとまっている。今回公園整備をする中で、このような藤塚の豊かな自然を蘇らせ、守っていくような場所になれば良いと思う。
阿部課長 (仙台市公園整備課)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最後に事務局から一言お話する。本日提示した案を実現していくには多くの壁を乗り越える必要があるが、できる限り皆様のご意見に沿えるよう尽力する。 ・ 今後のスケジュールとしては、かわまちづくり計画の仮申請後、来年度4月には本申請を行い、藤塚地区のかわまちづくり事業を展開していく予定である。併せて、今年度末までに公園整備計画をまとめたいと考えている。 ・ 検討会は今回で終了するが、今後も個別にご相談する機会があると思われるので、その際はお知恵を拝借したい。
3. 閉会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 司会あいさつ
	(閉会)